

### 【幹事会】

日時：11月29日(土)13時～15時

会場：東京工業大学 大岡山キャンパス 本館 H112 教室

出席者：佐藤、朝倉、清水、沼子、田中、原田、植草、腰原、朴、近藤、平井、村上、足立、熊井、千田

議事に関しては、運営委員会議事録を参照のこと

### 【運営委員会】

日時：11月29日(土)15時～17時

会場：東京工業大学 大岡山キャンパス 本館 化学専攻会議室 (H148号室)

出席者：佐藤、朝倉、清水、沼子、田中、原田、植草、腰原、朴、近藤、平井、雨宮、今井、奥田、奥部、尾嶋、栗栖、佐々木、鈴木、高橋嘉夫、田淵、中川、林、藤森、船守、三木、百生、横谷、足立、熊井、河田、千田、村上、

1. 会長挨拶
2. 幹事報告

- (1) 田中会計幹事より、H26年度 予算の説明があった。
- (2) 清水行事幹事より、物構研フェスタでの PF-UA 所掌の行事について説明があった。  
また、放射光学会合同シンポジウムでの PF-UA の集い (担当 井田行事幹事) について、説明があった。

PF-UA の集い：日時：1月11日 12:00-13:00

場所：立命館大学草津キャンパス ユニオンカフェ 2F

(11:00-12:00 幹事会)

- (3) 編集広報幹事より、PF-NEWS について報告があった。そのなかで、新人紹介に関する個人情報の取扱いについて編集委員会で議論していることが報告された。
  - (4) 腰原戦略将来幹事より報告があった。PF-UA から「PF および日本の放射光科学の将来への提言」を出した。
  - (5) 沼子推薦・選挙幹事より、H27-29年度 PF-UA PF 外運営委員 選挙について報告があった。
3. 佐藤会長より、PF-UA 白書について報告があった。  
「PF および日本の放射光科学の将来への提言 (PF-UA 白書)」が佐藤会長と PF-UA 戦略・将来計画検討委員会により作成され、6月から7月にパブリックコメントを募集

した。

4. 佐藤会長より、放射光ビームタイム確保に関する要望書について、報告があった。  
2014年2月6日に佐藤会長と鈴木機構長との会談が行われ、8月12日に文部科学省素粒子原子核研究推進室長と佐藤会長が会談した。その後、KEK機構長宛てに佐藤会長と村上放射光学会長の連名で、放射光ビームタイム確保に関する要望書を提出予定である。

また、これに対して10/8付けで、機構長からメッセージが寄せられた。

機構長からのメッセージ [http://pfwww2.kek.jp/pfua/katsudo/letter\\_from\\_kek.pdf](http://pfwww2.kek.jp/pfua/katsudo/letter_from_kek.pdf)

5. PF 将来計画について報告があった。  
物構研運営会議の下部組織として、「フォトンファクトリー将来計画検討委員会」が11月11日に立ち上がった。

佐藤 PF-UA 会長を委員長とし、計20名で組織した。2014年度末に中間まとめを行うとして、11月より月一回のペースで会合を行い、3月以降、KEK 研究推進会議で議論後、KEK ロードマップを変更し、4月の物構研運営委員会で報告を行う予定である。

6. 会則改正について、朝倉庶務幹事より説明があった。

これまで、PF-UA の活動やアンケートについて、PF を利用するために登録を行ったユーザーの名簿を利用しているが、アンケートなど実施する際に問題が起きないように、会則 第3条に8として、「PF の要請を受け、調査活動を行う。」を新規に加える提案があり、運営委員会に於いてこの提案が承認された。この件は、PF-UA 総会において議決を問う。

7. 村上施設長より、施設報告があった。

2014年度は、予算が減額されたことと電気料金の高騰の影響で、ユーザー運転時間が2013年度と比較し約30%少なくなり、PF 2328時間、AR 1992時間となった。この影響か、2015年前期の課題申請数も減少傾向がみられ、とても憂慮している。

共同利用実験関連事項：セミマイクロビームを利用した XAFS/XRF 実験ラインと低エネルギー/高輝度ビームを利用した小角測定ラインからなる BL15 が2014年後期に共同利用を開始した。また、30eV-2000eV の広いエネルギー範囲での高分解能・高輝度を達成した BL2 が日立製作所と共同で立ち上がり、2015年度に共同利用を開始予定である。

2014年度は、運転予算の確保が非常に厳しい状況を踏まえ、共同利用実験に関わる旅費の支給の大幅な見直しを実行した。

G, P, U型課題について、関東地区一都六県の方には旅費の支給をなしとした。

放射光・中性子・ミュウ中間子という多彩なプローブを兼ね備えた物構研の特徴を活かし、これらを横断的に活用する研究を採択するための「物構研マルチプローブ課題」が、2015年上記より募集開始となる。

その他、複数課題の一括ビームタイム配分、ルーチン測定用の課題申請、ビームタイム

削減・旅費支給・運転時期に対するユーザーへの意見聴取について、UG 運営 ST 評価結果の検討、などについて説明があった。

7. 平井副会長（次期会長）挨拶